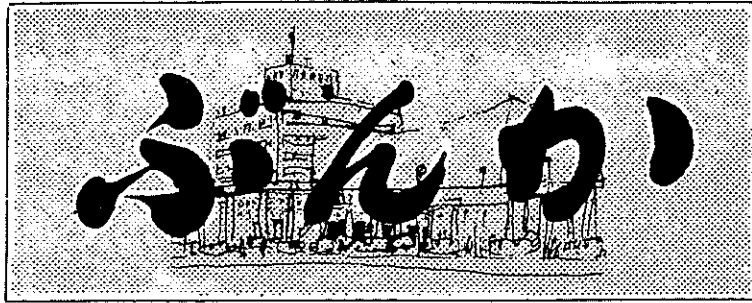


1985

12月号

第200号



発行所
富山県民会館文化友の会
富山市新総曲輪4の18
富山県民会館内
郵便番号 930
電話 富山32-3111(代)
郵便振替口座金沢 10561番

毎月27日発行
購読料 1部40円

『ぶんか』200号の発行を記念して

富山県民会館文化友の会会長 源 初太郎

師走の候を迎え、会員の皆様には、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃、文化友の会の運営にあたり、各方面からの御指導、御協力を賜り、ありがとうございます。

文化友の会の機関紙「ぶんか」の200号の発行を記念いたしまして、一言御挨拶を申し上げます。



昭和41年4月に「富山県民会館音楽友の会」が発足し、44年4月に同会が発展的に改組され、「富山県民会館文化友の会」として再出発して以来、当会の歴史も長い年月を数えるに至っております。

この文化友の会の発足を記念して、44年4月27日に、「ぶんか」と名付けた機関紙の第1号を発刊してから、今12月号をもって、200号の発行に至った次第であります。発行当初は、県民会館の行事を重点的に紹介していましたが、46年の4月号(第24号)から、広く県内の文化行事を案内することとし、また57年の4月号(第156号)からページ数も増やし、更に59年の6月号(第182号)から紙面を拡充して今号へと続き、発行部数も約5,000部となっております。

この間休刊、遅刊することなく、毎号欠かさず定期的に発行されてまいりましたことは、ひとえに会員各位の御協力のお陰によるもので、ここに新たにお礼の言葉を申し述べさせていただきます。そして、この「ぶんか」が、16年余にわたって、文化情報を提供してきたことにより、多少なりとも、本県の文化の普及、振興に役立ってきたのではないかと、自負しているところであります。

この数年来、県立近代美術館の開館をはじめ、砺波、

新湊両市の文化会館が相次いで建設され、本年になって、上市町に北アルプス文化センターがオープンするなど、各地において文化施設が建設され、地域住民のため文化行事が、活発に展開されています。それにつれて、文化情報を求める声は広まり、その要望に応えるべき役割りは、ますます重要となってくるものと思われまます。

文化友の会といたしましては、この「ぶんか」200号の発行を節目とし、限られた紙面ではありますが、創刊号以来保ち続けている「文化情報紙」としての役割りを変えることなく、今後とも地道に号数を積み重ねてゆく所存であります。

会員各位におかれましては、今後より一層文化友の会の運営に御協力を賜りますと共に、本紙の充実のため、格段のお力添えの程を、お願い申し上げます。

向寒の折柄、御自愛の程をお祈りし、「ぶんか」の200号発行記念によせる御挨拶といたします。

感謝の気持ちをこめて――

岡田 繁 憲

このたび、第17回日展の日本画部門において特選を頂き、今迄私を指導して下さいました先生方に、深く感謝すると共に、振り返ってみて、画を描き始めて20年という歳月に対し、万感の思いが湧いてくる。

郷里の福野町では斎藤清策先生の許に入り、当初は理屈を超えたスケッチを1日1冊という徹底した指導を受けた。基礎とは頭でするものではなく、体で覚えるものであった。今から見れば何ともたどたどしいスケッチではあるが、斎藤先生は熱心に見て指導して下さいました。今でもその頃のスケッチは大切にしている。

福野では、彫刻や油絵等の色々な分野で勉強している若者達の仲間、デッサンの集りを幾つかつくり、富大の彫刻の勉強会にも入れて頂いたりした。

また県民会館の美術教室に入会して、斎藤先生のほかに、大島秀信先生、金守世士夫先生、故関長造先生、故島田雄二先生等から丁寧に指導して頂き、思えば随分と贅沢な勉強をさせてもらっていたものだと思う。

富山での10年の勉強の後に上京して、奥田元宋先生の許で、早くも10年経って、現在に至っている。

奥田先生のそばにいて「半心半眼」という画を通してものの真随を見ろということ、言葉でなく、その日

美しい明日のために今日も……

北日本印刷株式会社

富山県安住町一番六号 ☎(0764)32-1226

常の端々から教わった。

それには漠然と、或いは逆に単なる観察でもものを見るのではなく、そのもの持っている質量、更にそのものの世界を見る感受性と、より深く洞察する力、智とを併せ持っていかななくてはならない。自分とは違う世界を知ることは、自分が広がることであり、またそこには驚きや喜びや畏れが生れてくる。より豊富な言葉を持つ者は、そのものと自分との接点で生れる感動を文章にし、音感を持つ者は音楽にし、線を持つ者はそれを画にする。私はこれらの一つの手段をも持たない者でなかったことを幸せに思う。自分と自然、小さな虫や草との対話の方法を、私は画に持っているからだ。(写真=第17回日展特選「夏のおわりに」岡田繁憲)



それには、その方法を私に手取り足取りして教えて下さった先生方や仲間がいてくれたからであり、そのことはまた、人間自分一人では何もできないのだということを、私に教えてくれてくる——感謝。

私は東京にあっても、文化友の会の会員であり、毎月送られてくる「ぶんか」を楽しみにしている。それが郷里富山県とをつなぐ心のよすがともなっている。

「ぶんか」の第200号の発行をお祝いするとともに、文化友の会が、ますます御発展されますことを祈念いたします。(日本画家 福野町出身 東京都在住)

県民会館美術教室作品展

県民会館の美術教室では洋画、日本画、デッサンの3教室に、約120人の人達が受講しています。

毎週火曜日の洋画教室では、着衣のモデルを使い、絵画の基礎を徹底的に勉強されています。毎週水曜日の日本画教室では、花や果物等の写生から、展覧会に出品する大作まで、各人のレベルに応じて進んでいます。毎週木曜日のデッサン教室は、金沢からモデルを招き、本格的な裸婦のデッサンに取り組んでいます。

受講生のなかから、年毎に、市展、県展、勤美展、婦人美術展等に入選・入賞される人が増え、それが励みにもなって、ますます教室は活気づいています。

この美術教室の作品展は、年末を迎えて、今年美術教室で学ばれた受講生の方々の成果の発表展です。

今年は広くなった美術館で開催いたしますので、みなさんは大作を発表しようと、目下張り切って制作に取り組んでおられるところです。

なお、講師の大島秀信先生、斎藤清策先生(日本画)、佐藤仁視先生、大門清廣先生(洋画・デッサン)も賛助出品され、会場に花を添えていただきます。

・12月22日(日)～24日(火) 富山県民会館美術館

第8回二科会写真部富山支部公募展

一般に、公募展の場合、応募者にとっての一番の関心事は、当然のことながら、自分の作品が入選、入賞したかどうかということであろう。次には入選なり入賞の作品が妥当かどうかを、自分なりに批評し、時には納得もすれば、ガッカリもし、その繰り返し、創作活動へとかりたてていくのである。

公募展の審査は、普通の場合、密室状態で行われるが、公開審査では、審査員が、ひとつ一つの作品に批評を加え、作品に対する見方、考え方を解説するもので、その場には誰れでも参加でき、場合によっては、審査員と意見交換ができ、極めて勉強になるものである。

当支部の公募展が、かたくなに、第1回からこの公開審査制度を採り入れているのも、このためである。

本年で第8回目を迎える今回の公募展は、436点の応募作品の中から、一次審査を通った88点が、12月3日、県民会館美術館において、秋山庄太郎先生によって、公開審査されることになっている。

さらに今回は、来富される秋山先生の近作「花をみつめて」も併設展として、この公募展に花を添えていただくことになっている。(二科会写真部富山支部)

・12月4日(水)～8日(日)

富山県民会館美術館

より美しく、誠実に
優れた管理と経済性を追求する。

B

ビルの総合管理

太平ビルサービス株式会社

取締役社長 狩野伸彌
富山支店長 小林勝

本社/東京都渋谷区代々木2-16-7
富山支店/富山市新桜町4-28 ☎32-8600代
支店・営業所/全国51主要都市

県民会館ロビー〈カミート〉のいけばな

12月のいけばな出瓶者は次のみなさんです。

12月3日～5日 柳田アイ 谷光恵 岡田光洋
6日～8日 阿部典子 板倉晴花 橋爪美智子
10日～12日 高見英江 森恵子 永守千峰
13日～15日 五十嵐三峯 田中恭子 上滝和子
17日～19日 堀田一子 浜田晴美 田中之子
20日～22日 半田柳泉 黒田はる 伊林妙子
24日～26日 佐伯幸遊 吉田律子 根塚浪子

IYY メモリアル フェスティバル の開催について

国際青年年を記念して、富山県では、12月15日(日)午後1時から、県教育文化会館ホールで、IYYメモリアルフェスティバルを開催いたします。

この大会は、国際青年年の1年を振り返るとともに、記念の年のフィナーレを、若人が躍動するステージ発表で飾るもので、IYYのテーマである「参加・開発・平和」の精神を、将来に引き継ぐことを目指した記念大会です。

内容は、第1部として富山商業高校ブラスバンド部によるオープニングドリル演奏。第2部は記念式典、そして第3部は有磯高校の新体操、魚津市上野方校下青年団のせり込み蝶六。またファッションショーや落語など若人の情熱あふれるエクセレントステージです。

なお、IYY国連事務局長モハメド・シャリフ博士の列席が予定されています。

青年はもとより、皆様の多数のおいでをお待ちしています。入場は無料です。詳細については、県庁婦人青少年課(0764-31-4111内線763)までお問い合わせ下さい。

(富山県婦人青少年課)

・12月1日(日)13時 富山県教育文化会館ホール

富山女子短期大学付属高校吹奏楽部 第1回定期演奏会開く

本学園創立20周年を記念して創部された、我々富山女子短大付属高校吹奏楽部は、今年で3年目。やっと全学年のメンバーが揃い、総勢51名となった。勿論全員女子である。

創部当初は、1年生のみ20数名でスタートしましたが、きびしい練習に克ち抜いた者が、現在の3年生部員16名である。

音楽は、ハーモニーや、リズムなどの重要な基礎を充分訓練しなければ、雑音になってしまうが、幸い本県は吹奏楽王国。とりわけ、名門校・富山商業高校の坪島先生をはじめ、県青少年オーケストラ指導者・大沢和夫先生、東京交響楽団コンサートマスターの吉川英貴氏など、多くの方々の指導・助言をいただきながら、訓練を重ねてきております。

昨年、全日本吹奏楽コンクール県大会に初出場ながら銀賞を獲得。中部日本コンクール県大会でも昨年、今年と連続優勝するなど、生徒にとって、大変自信がついたと共に、力強い励みにもなっている。

私自身も、学生時代よりオーケストラや、室内楽に親しんできたこともあって、今回の定演曲目も、クラシック、オリジナルなものが多いけれど、最近耳にする多くの低俗な曲は、決して若い生徒には、良い影響を与えないものと確信しているので、今後も、美しい

ハーモニーをもった曲を選んでゆきたいと思っている。

ただし、生徒達自身の手で築き上げているステージ・ドリルは、まだ未熟なものだが、自主的活動の一つとして、大切にしていきたい。

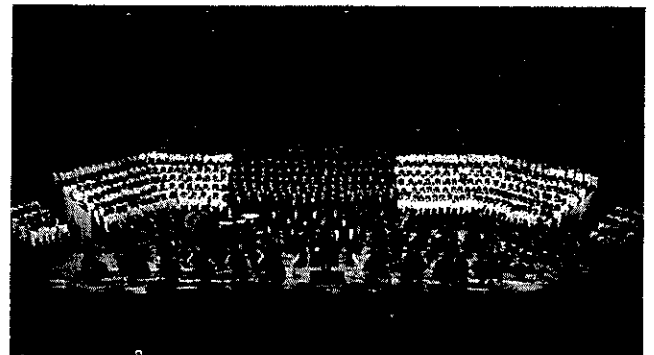
(富山女子短大付属高校吹奏楽部顧問 高田哲夫)

・12月21日(土)16時 富山県民会館ホール

富山と新湊で2夜連続の「第九」

「フロイデ、シェネルゲッテルフンケン(歓喜よ、美しい神々の火花のような)」——年末恒例の、ベートーベン「第九交響曲“歓喜”の夕べ」が、12月23日午後6時30分から、富山市公会堂で、翌24日には、今年初めての企画として、新湊市中央文化会館で開かれます。

第九演奏会は、年末になると日本各地で多く開催されていますが、近年本場のヨーロッパでも日本の影響を受けて、年末に演奏されることが多くなっています。



富山での「第九」は、昭和35年12月に、朝比奈隆指揮の大阪フィルと、県内の合唱愛好者200人が参加して開かれたのが始まりです。一時期開催できない年もありましたが、一流の指揮者と管弦楽を招き、その年の音楽界の掉尾を飾る形が定着し、今年21回目を迎えます。



富山の刺激を受け、新湊青年会議所のメンバーらが「第九」を通じ心の触れ合いを、と市民に呼びかけ、5月18日の結団式以来、パート別、総合練習を重ね、記念の第1回演奏会に向かって、最後の追い込みに入っています。(写真=昨年の第九交響曲「歓喜」の夕べ)

今年の「第九」は、外山雄三指揮、東京フィルハーモニーで、ソロを受けもつのは、地元砺波市出身の安念千重子=写真=(アルト)、秋山恵美子(ソプラノ)、饗場知昭(テノール)、高橋啓三(バス)の各氏。そして合唱団は、富山県合唱連盟第九合唱団と新湊・第九を歌う市民の会の演奏で、「歓喜の歌」を、声高らかに歌いあげます。ご期待下さい。

(北日本新聞社事業局)

・12月23日(月)18時30分

富山市公会堂

・12月24日(火)18時30分

新湊市中央文化会館

五十嵐喜芳 麻利江 ファミリークリスマスコンサート

あらゆる芸術の分野の中で、一番直接的魅力を持つのは音楽であろう。その中でも声楽に優るものはないであろう。

現在藤原歌劇団総監督、そして先日おこなわれた公演(マノンレスコー)にも出演しており、ずば抜けて豊麗で魅力的な声を持つばかりか、正確な音楽、貫録ある舞台姿、オペラ歌手としての条件を全て備えている五十嵐喜芳のリサイタルを、今回はイタリア留学中で、長い間タレントとしても活躍している麻利江にも出演を願い、親子共演という、初めてのコンサートになります。

クラシックからポピュラーソングまで、肩のこらない楽しい音楽会になるのではないかと自負しております。クリスマスソングもおりこみながら、地方ではめったに聞けないコンサートを、お楽しみ下さい。

プログラムの一部を御紹介しておきます。

ソプラノ「アヴェ・マリア」(グノー)。テノール「日本の歌」・からたちの花(山田耕作)・雪の降る町を(中田喜直)。オペラ「リゴレット」「慕わしき御名」(ヴェルディ)。トスカ「星は光りぬ」(プッチーニ)。世界の歌「忘れな草」(クルティス)。「カタリ」(カルディロ)。

(音楽工房ムジカ 奥田祐次)

・12月19日(休)18時30分 富山県民会館ホール

新井真理・松下正樹ジョイントリサイタル

「歌曲とアリアの夕べ」

新井真理と松下正樹のジョイントリサイタル「歌曲とアリアの夕べ」を、来る12月16日(月)、富山県教育文化会館ホールにおいて開催することになりました。両名は、音楽研究団体「新樹会」の会員であります。

松下正樹(バリトン)は、上越教育大学大学院を修了し、現在は上市町立上市中学校の教諭であります。新樹会研究演奏会第7回から第16回(本年8月)の独唱をはじめ、富山県芸術文化協会主催の、県民劇場音楽公演「河童譚」、オペラ公演「桶山伏」に主役として出演、良い発声法による安定した歌唱と、深い音楽表現を見せ、好評を得ています。

新井真理(ソプラノ)は、愛知県立芸術大学音楽学部声楽科を卒業し、現在は、ヤマハ音楽教室の講師であり、声楽の岡部多喜子氏(東京芸術大学教授)に現在も師事し、研鑽を積んでいます。第1回富山県新人演奏会に出演、新樹会第12回から第16回での独唱、富山コロ・ポリフォニコ合唱団の公演する数々のミサ曲にソリストとして出演、美しい歌唱を自然な発声という最も高度な技巧を駆使して表現し、良い評価を得て

います。

当夜の演奏曲目は、モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」のアリア。ドニゼッティの歌曲。シューベルトの歌曲集「白鳥の歌」より数曲。日本歌曲では、橋本国彦の作品。そして最後はオペラの二重唱というプログラムであります。

私は、若いこれから益々のびてゆく2人の、音楽への真摯なとりくみは、かならずすばらしい音楽として花ひらいてくれるものと信じています。

どうぞ皆様にもお聴き下さいまして、温いご高評とご指導をたまわりたいと思っております。

(新樹会主宰 新井文男)

・12月16日(月)18時30分 富山県教育文化会館ホール

アマからプロまで豊富な品揃え

各種額縁・洋画材料・日本画材料・デザイン用品

ガクと画材の キ レ イ 堂

本 社 富山市花園町3丁目2-7 Tel.☎2875
総曲輪店 富山市総曲輪3丁目8-4 Tel.☎2877

第2回レインボー・ノーツリサイタル クリスマスコンサート

レインボー・ノーツのメンバーは、フルート=土肥真人、クラリネット=伊尾孝敏、メゾソプラノ=寺沢和美、ピアノ=三上千晴、ギター=条谷秀夫、チェロ=和田雅夫の6人。アンサンブルの楽しさに魅せられ、昨年結成して以来、週1回位の練習を続けています。

12月10日に開く第2回リサイタルでは、クリスマス物語であるチャイコフスキーの「くるみ割り人形(組曲)」全曲をはじめとして、歌・クラリネット・ピアノのトリオでシュポア作曲「6つのドイツ歌曲」、フルートとギターのデュエットでジュリアーニ作曲「ソナタOP85」、チェロ独奏でバッハ作曲「無伴奏チェロ組曲3番」より「ブーレ」とフォーレ作曲「エレジー」と続き、最後にクリスマス聖歌集を全員で演奏します。このうち「くるみ割り人形」と、クリスマス聖歌集は、レインボー・ノーツの編成に合わせて、ギターの条谷が編曲したものです。

昨年の第1回リサイタルは、編成のユニークさと、アットホームな雰囲気が高評をいただき、「カルメン組曲」の再演を既に2度行ないました。

今回は、さらに内容の充実したもの、より多くの方々に楽しんでいただけるものを目指して、練習に励んでいます。一足早いクリスマスを、メロウな室内楽で味わっていただきたいと思えます。

(レインボー・ノーツ 三上千晴)

・12月10日(火)18時30分 富山県教育文化会館ホール